

農作物の生育状況と今後の見通し

農業振興戦略監とつり農業戦略課 研究・普及推進室 まとめ
令和2年8月18日 現在

作物名	生育状況等	今後の見通しと対策
作物	<p>水稲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地ほ場において、茎数は平年並～やや多い傾向で、全般的に生育は順調である。 ・中干し期間中の降雨により、中干しができていないほ場が多い。 ・一部で葉いもちの発生が見られる。また、セジロウシカやトビイロウシカ、コブノメイガの発生が例年より多い。 ・出穂期は平年に比べ1～3日遅かったが、8月に入って高温が続いており、収穫適期は早まることが予想される。 【農業試験場作況】 ・5月11日田植は出穂はやや遅く、茎数少なく、草丈も短めで、葉色は平年並～やや濃い(ひとめぼれ:出穂期7月27日(平年比3日遅)、コンセカリ:出穂期7月31日(平年比3日遅))。 ・5月25日田植は出穂期は平年並～やや遅く、茎数は平年並～やや多く、草丈は平年並～やや短め、葉色はやや濃い。(コンセカリ:出穂期8月9日(平年比2日遅)、星空舞:出穂期8月9日(前年比1日遅)、きぬむすめ:出穂期8月15日(平年比1日遅)) 	<ul style="list-style-type: none"> ・登熟期間中の高温による白濁米等の発生が懸念されるため、登熟前半(出穂期から20日間程度)にかけて可能な範囲で給水を湛沢にし、水温の上昇を抑制する。 ・中干しが不十分なほ場では、間断かん水の乾田期間を長くし、田面を徐々に固めていく。 ・適期落水を行う(完全落水は出穂後30日以降)。 ・出穂前後の基幹防除を適期に行うとともに、トビイロウシカが要防除水準(8月下旬～9月:成幼虫数10頭/株)を超えた場合は直ちに防除を行う。防除にあたっては農薬の収穫前日数及び総使用回数に注意する。収穫期が迫り防除ができないほ場は収穫適期の範囲内で早めに収穫する。 ・適期収穫の励行(収穫遅延は品質低下を助長する)。
	<p>大豆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月上中旬までの播種については開花期は平年並(6月17日播種サチユタカ:開花期8月2日)、6月下旬播種では7月の低温により開花期はやや遅くなっている。8月に入って降水量が少なくなっており、水分不足となっているほ場が見られる。 ・ホソヘリカメムシ等吸害性カメムシ類の被害やハスモンコトウの食害による白変葉の発生がみられる。 ・6月中旬の大雨で、発芽不良となったほ場も多く、その後も降雨が続いたため、平年に比べ播種時期が遅くなっているほ場が多い。8月播種のほ場もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・可能な範囲での開花期かん水の励行。 ・カメムシ及び紫斑病等を対象とした病害虫防除の励行。 ・開花期後の日数、着実状況を目安に防除を行うが、播種が遅い場合は、開花期、防除適期も遅くなるので注意する。
果樹	<p>ナシ</p> <ul style="list-style-type: none"> 【ハウス二十世紀】 ・8月3日より選果が始まり、主産地の琴浦・東郷では8月11日に選果終了した。 ・果実は例年に比べやや小ぶりの傾向(3L中心の2L寄り)であったが、着色・糖度も良好で販売は好調であった。 【露地二十世紀】 ・8月10日の事前査定会では、昨年よりやや小玉であるが、着色は良く、果実肥大は平年並み近くまで回復していると判断された。 ・8月20日に査定会が開催される予定。 【なつひめ・新甘泉】 ・「なつひめ」は18日初販売、「新甘泉」は24日初販売される計画。査定結果では、ほぼ平年並みの生育に回復してきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・露地栽培の「二十世紀」は、8月27日に初販売される計画。 ・カメムシ類の注意報が発表されている。また、8月上旬の予察灯におけるチャバネアオカメムシ、ソヤアオカメムシの誘殺数および集合フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシの誘殺数は平年に比べてやや多い地域が散見されている。被害果実や飛来が多い場合は、追加防除を実施する。収穫期に入るので、薬剤散布をする際は農薬の収穫前日数に気を付けながら、樹冠ごとの防除層を参考に行う。 ・日中30度を上回る高温乾燥状態が続いている。収穫の1週間～10日前にかん水を切り上げることを目安に適宜かん水を行う。 ・台風に対する対策を事前に準備しておく。
	<p>カキ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「輝太郎」では、盆前から生理落果が始まっている。 ・高温の影響で、直射日光の当たる果実では、日焼け果が発生する可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「輝太郎」は、生理落果が落ちついてから最終着果数とする。 ・カメムシ類の注意報が発表されているため、引き続き園内を見回り、発生が確認されたら早めに防除を実施する。 ・台風に対する対策を事前に準備しておく。
	<p>ブドウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「巨峰」「ピオーネ」は出荷中となっている。夜温が低かったため着色は良い。7月24日査定会では糖度、酸度は出荷基準を満たしていたが、比較的曇雨天日が多いので各生産部では糖度確認をして出荷する必要がある。 ・「シャイン・マスカット」は香先の低温により果粒肥大はやや遅れていたが、徐々に前年に近づいており例年どおり8月下旬から出荷予定。 ・例年行われる試食宣伝会は、新型コロナウイルスのため中止となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハマキムシ類、スリップス類の発生に注意が必要。
野菜	<p>白ねぎ</p> <ul style="list-style-type: none"> 【夏ねぎ】 ・7月の長雨による土寄せなどの管理作業の遅れや日照不足で肥大が不十分で規格中心であったが、生育は回復し肥大が進み出荷量が増加している。 【秋冬ねぎ】 ・高温、乾燥により生育停滞し、葉先枯れが目立っているが、現在のところ大きな影響はない。 【春ねぎ】 ・高温、乾燥により生育は停滞気味であるが、大きな影響はなく概ね順調。 【病虫害】 ・夏ねぎ、秋冬ねぎでは、長雨後の高温の影響で軟腐病の発生が確認されている。特に、降雨時に滞水していたほ場で顕著。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高温が継続するため、軟腐病、白絹病、ネギアザミウマの防除を引き続き徹底する。 ・夏ネギは収穫可能となったほ場は、ほ場内での軟腐病蔓延を防ぐためできるだけ早く出荷するとともに、出荷調整時の軟腐病症状の選別、作業時の伝染防止を徹底する。 ・春ネギ、秋冬ネギはかん水が可能なほ場ではかん水を行い生育を促進する。 ・今後の台風等による大雨に備え、明渠など排水対策を徹底する。明渠が土砂の流入などで浅くなっている場合は、スムーズに排水するよう土砂を取り除いておく。
	<p>ブロッコリー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冷涼地では7月21日頃から、平坦地では8月1日頃から定植が始まっている。長雨の影響で、7月下旬～8月上旬は作業ができず作業が遅れ気味であったが、その後は回復し順調に定植され、計画の約2割の進捗。 ・種一部だが、高温乾燥のため、定植後のかん水が不十分なほ場で定植後の萎れ、枯死が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・播種は8月末まで、定植は10月中旬まで続く見込み。 ・降雨が見込めない場合は、定植後から活着までのかん水を徹底し、初期生育を促す。 ・台風等による大雨に備え、明渠など排水対策を徹底する。明渠が土砂の流入などで浅くなっている場合は、スムーズに排水するよう土砂を取り除いておく。 ・黒すす病の対策を徹底する(排水対策及び予防防除)。 ・今後の台風の進路に注意し、場合によっては台風が通過してから定植する。
	<p>ながいも</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月30日の試験掘り結果では、ねばりっこは芋重385.9g(平年比:120.2%)で平年以上の生育だが、在来ながいもは芋重247.9g(平年比:85.0%)で生育が遅れている。 ・一部のほ場で、炭そ病による葉枯れ、ナガイモコガによる食害が発生しているが、産地への影響は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・早期落葉を招かないように、炭疽病、ナガイモコガ、ハダニ類の発生に注意し、防除を徹底する。
	<p>夏秋トマト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低位段が大玉であったため、現在はやや小玉傾向となっているが、出荷量は前年並み。 ・梅雨明け前後の開花段で着果数の減少が見られ、9月の出荷量は減少する見込み。 ・葉かび病、すすかび病、うどんこ病、灰色かび病、白絹病、オオタバコガの発生が確認されているが産地全体的では軽微。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気温が低下とともに草勢は回復すると見られるが、花数の減少により一時的に出荷量が減少する見込み。摘心作業に入り、草勢、玉太りは徐々に回復すると思われる。 ・草勢が低下しないよう、適宜、葉面散布剤を散布する。 ・青枯病の発病株は抜き取りで対応する。
	<p>抑制ミニトマト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月上旬から順次出荷が始まっており、概ね順調。現在、10～12段目開花中。 ・スリップス、サビダニ、すすかび病の発生が見られるが、影響は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スリップス類、ハダニ類、すすかび病など病害虫の発生が増えることが見込まれるため、防除層に合った早めの防除を徹底する。 ・草勢が低下しないよう、薬剤防除とともに葉面散布剤を散布する。
<p>アスパラガス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏芽の出荷中では出荷量(日量)はほぼ平年並み。 ・高温乾燥の影響で奇形茎の発生が多くなっている。 ・萎枯病は、ほとんどのほ場では発生初期で抑えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き萎枯病防除を徹底する。 ・高温乾燥が続くため、必要に応じて灌水を行い出芽促進、奇形茎防止を図る。 	
花き	<p>シンテッポウユリ</p> <ul style="list-style-type: none"> 【季咲き作型】 【東部地区】 ・7月30日に初出荷。 ・8月以降は日量1000～3000本の出荷。7月半ば頃の生育状況から、盆～盆後に収穫ピークとなることが予測されていたが、盆前に出荷ピークを迎えた。鳥取市の1戸は盆直前から出荷盛期を迎えた。 【中部地区】 ・倉吉市の1戸は生育にバラツキがあるものの、盆を中心に出荷され、残りは少ない。彼岸出しの露地作型も出番し、彼岸の向けて順調に生育している。 【ハウス抑制作型】 【東部地区】 ・1戸彼岸出荷を目指して栽培中。抽苔が早くやや細いものもあるが、順調に生育している。 【中部地区】 ・大菜花き部会(北栄町・倉吉市)では抑制作型の抽苔率は8月13日時点で50%と昨年同様に抽苔が早い。(近年の同時期抽苔率R1年50%、H30年10%、H29年20%) ・8月10日頃から電照を開始している。 	<ul style="list-style-type: none"> 【ハウス抑制作型】 ・昨年同様に抽苔が早いので、出荷初期に1～2輪が多くなると見込まれる。 ・猛暑が続く予報なので、抽苔率の低いほ場では寒冷紗の二重被覆を実施し、ハウス内温度の上昇を防ぐ。抽苔が早いほ場では寒冷紗を1枚にして、日照不足による輪数の減少を防止する。
	<p>リンドウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 【東部地区】 ・盆向けの出荷が8月7日頃を中心に選花場に持ち込まれた。長雨の影響で、褐斑病が多発していることから選花場への持ち込みが少ない。 【中部地区】 ・1戸が栽培。7月下旬から順調に開花し、県外市場に出荷された。ただ、夏秋トマトとの労力競合で十分に出荷ができず、市場出荷は200本程度。残りの一部は直売所への出荷となった。全体として出荷本数は700本程度。 	<ul style="list-style-type: none"> ・切り花後も褐斑病の継続防除を指導。 ・褐斑病に効果の高い剤の情報が求められている。 ・切り花後の防除、残った花の整理が必要。将来的に他作物と競合のない系統に変更する必要がある。
	<p>トルコギキョウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 【季咲き作型】 【東部地区】 ・八頭地区では3戸が栽培しており、3戸とも盆前に切り花を迎えた。 ・鳥取地区で栽培する1戸は定植が遅れたため、盆前から徐々に収穫が始まった。盆後にピークを迎える。 【抑制作型(秋だし)】 【東部地区】 ・智頭町の1戸は概ね順調に生育している。高温のため生育が早く、やや細く仕上がっている。鳥取市で少量栽培する1戸は定植後の管理が不十分で、生育は停滞している状況。 【中部地区】 ・北栄町、倉吉市で栽培されており、いずれも順調に生育している。 	
	<p>ストック</p> <ul style="list-style-type: none"> 【中部地区】 ・大菜花き部会(北栄町・倉吉市)では7月25日から播種開始。現在播種最盛期。播種は計画通り行われている。発芽は順調。 【西部地区】 ・標高が高い伯耆町では7月15日から、中山地区など平坦地では7月22日から播種が始まっており、概ね昨年並み。 ・発芽は順調で鑑別も実施されている。病害虫の発生は見られない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コナガ、コロロギ、パッタなどの防除を徹底する。 ・順次八重鑑別を実施する。
	<p>アスター</p> <ul style="list-style-type: none"> 【ハウス抑制作型】 ・北栄町内で栽培。6月下旬播種で10cm程度。7月上中旬播種は補植を開始している。全体として発芽率は良い。 ・移植栽培の1戸で生育停滞があるが、土壌消毒によるものと思われ、上位葉は回復してきているが、出荷は難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・8月下旬よりハダニが見られるようになるため、防除を徹底する。
	<p>キク</p> <ul style="list-style-type: none"> 【中部地区】 ・盆出荷用の作型は露地、ハウスともに順調に生育し、出荷された。 	
畜産	<p>飼料用トウモロコシ</p> <ul style="list-style-type: none"> 【鳥取・八頭地区】 ・8月6日鳥取県畜産農協(旧東部コントラ)が収穫開始、これまでに約25ha実施。 ・収穫時ステージは、8月13日までは乳熟～糊熟期、8月16日以降は糊熟期と早刈傾向(適期は黄熟期)。 ・個人農家での収穫は8月9日に開始、これまでに約3ha実施。 【東伯地区】 ・8月6日東部コントラ、8月7日大山ビューコントラが収穫開始。開始時期は平年並み。天候良好で作業は順調。 ・北栄町では、8月15日頃に収穫開始。 【大山地区】 ・順調に生育中だが、一部ほ場でイノシシ被害、虫害あり。 	<ul style="list-style-type: none"> 【鳥取・八頭地区】 ・鳥取県畜産農協は8月中に収穫終了予定。 【東伯地区】 ・個人農家の収穫は盆明け頃から始まる予定。 【大山地区】 ・イノシシ被害低減のため電牧管理を徹底する。
	<p>イタリアンライグラス等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○イタリアンライグラス 【大山地区】 ・3番草収穫済み。 【西部地区】 ・7月の長雨による影響で、収穫できずに枯死したほ場がある。 ○他牧草 【鳥取・八頭地区】 ・湖山池周辺牧草では8月6日瀬地区3番草収穫開始。 	<ul style="list-style-type: none"> ○イタリアンライグラス 【西部地区】 ・イタリアンライグラス枯死後、他のイネ科(ヒエなど)を収穫予定。
その他	<p>農作業安全</p> <ul style="list-style-type: none"> 8月13日広島気象台発表の中国地方の1ヶ月予報では、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みで、また、暖かい空気に覆われて、向こう1ヶ月の気温は高いと予測されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 【予防方法】 ・できるだけ気温の高い時間帯を避けて作業する。 ・休憩をこまめにとり、作業時間を短くする。特に気温が高くなりやすいハウス内での作業は注意する。 ・作業するハウスは、できるだけ換気に努める。 ・日射を防ぐ服装をする。通気性の良い素材の長袖シャツと長ズボンを着用し、つばの広い帽子などを被る。 ・気温・湿度が高い中でマスクを着用すると熱中症のリスクが高まるため、屋外での農作業などにおいて人と十分な距離(2m以上)が確保できる場合には、マスクを外して行う。 ・マスクを着用している場合には強い負荷の作業は避ける。 ・農作業の際には水、氷(保冷剤)、濡れタオル等を持参し、汗で失われた水分を十分に補給するための水分をこまめに摂取する。また、汗を大量にかいた際には塩分の補給もあわせて行う。